

- 一、在學期年齡ノ死亡者
- 一、學生生徒兒童疾病年齡別調査
- 一、入學試験準備ノ心身ニ及ホス影響
- 一、入學試験ノ價值
- 一、入學受験者ノ尿ノ検査
- 一、入學試験ニ於ケル學科目精神検査及身體検査
- 一、休憩時間ニ關スル調査
- 一、學校ノ休業日ニ關スル調査
- 一、教授時間短縮ニ關スル調査
- 一、兒童生徒ノ携帶品ニ關スル調査
- 一、教員ノ身體検査ニ關スル調査
- 一、文字ノ大サニ關スル調査
- 一、個人差ノ調査
- 一、學年ト疾病及季節ト疾病トノ關係
- 一、特別學級ニ關スル調査

- 一、兒童生徒ノ貧血症ニ關スル調査
- 一、精神検査ニ關スル調査
- 一、睡眠時間ニ關スル調査
- 一、災害ヨリ得タル女學生ノ體驗ニ關スル調査
- 一、評點法ノ調査
- 一、小學校兒童ニ試ミタル知能検査ト教育測定
- 一、就學前兒童身體検査ニ關スル調査
- 一、身體虛弱兒童ノ取扱ニ關スル調査
- 一、在米本國及布哇邦人兒童ノ發育狀況ニ關スル調査
- 一、體操科指導監督者設置狀況
- 一、全國中學校體操教員ニ關スル調査
- 一、體操科教授ニ關スル調査
- 一、小學校ニ於ケル駢走ニ關スル調査
- 一、競走指針
- 一、運動選手ノ健康ニ關スル調査

- 一、學校ニ於ケル體操科ニ對スル生徒ノ感想及意見
- 一、運動ニ關スル國內出版ノ圖書雜誌現況
- 一、年齢、年級、身長、體重ヲ基礎トスル新競技標準
- 一、青少年ニ於ケル體育運動ノ影響及ヒ效果
- 一、陸上水上競技記録比較表
- 一、歐米各國ニ於ケル體育ニ關スル事項調査
- 一、我國體育運動團體ニ關スル調査
- 一、最近開催セラレタル我國競技會職員調査
- 一、學童相撲ニ關スル意見
- 一、體操科設備準則ノ一例
- 一、水泳指針

#### 四、地方ニ於ケル學校衛生狀況

地方ニ於テハ各府縣ニ學校衛生技師ヲ設置シテ學校衛生ニ關スル指導監督ニ從事シ左ノ職務ヲ掌ラシム

甲 (イ) 校地建物並設備ノ衛生ニ關スル事項

- (ロ) 校具ノ衛生ニ關スル事項
- (ハ) 教授衛生ニ關スル事項
- (ニ) 體操其他ノ體育運動ニ關スル事項
- (ホ) 職員生徒兒童ノ身體検査及健康増進ニ關スル事項
- (ヘ) 病者虛弱者精神薄弱者ノ教養ニ關スル事項
- (ト) 林間學校休暇聚落補助學校ニ關スル事項
- (チ) 飲食物ニ關スル事項
- (リ) 疾病豫防ニ關スル事項
- (ス) 清潔ニ關スル事項
- (ル) 學校醫ニ關スル事項
- (イ) 教員任用時ニ於ケル身體審査ニ關スル事項
- (ロ) 學校衛生思想普及ニ關スル事項

丙 其他學校衛生上必要ト認ムル事項

右ノ外體育運動指導監督者ノ設ケアル府縣郡市アリ、各學校ニハ學校醫ヲ設置シテ各其ノ職務ニ從事セシ

又或市町村ニ於テハ學校醫ヲ專務トスル專任學校醫ヲ置ケルモノモ尠カラス。尙近年學校醫ノ職務ヲ補助スル學校看護婦、學校衛生婦ヲ設置シ學校衛生上好成績ヲ舉ケツ、アリ。

又近來各地ニ於テ學校長、學校醫、學校管理者等ヨリ成レル學校衛生會或ハ學校醫會ヲ組織スルモノ漸次多キヲ加ヘ學校衛生ノ調査研究等ニ從事ス。其ノ他官衙教育會等ニ於テハ學校衛生講習會、講演會ヲ開催シ又學校衛生デーヲ設ケテ學校衛生ニ關スル各種ノ施設ヲナシ講演會、展覽會等ヲ開催シテ一般父兄ニ聽講縱覽セシムル等銳意斯道ノ振興ニ努力シツ、アリ。

### 五、學校衛生ニ關スル私設團體

#### 1、帝國學校衛生會

本邦學校衛生ノ進歩發達ヲ圖ルヲ目的トシテ一九二四年十二月ノ創設ニ係リ學校衛生ニ直接參與スル會員二千有餘ヲ有シ、雜誌圖書ノ刊行、研究會、講習會、講演會ノ開催其ノ他學校衛生振興ニ關スル事業ヲ行ヒ本邦學校衛生上貢獻スル所大ナリ

#### 2、全國聯合學校衛生會

一九二二年帝國學校衛生會ノ發起ニテ全國各地ノ學校衛生團體ヲ代表スル議員東京ニ集合シ學校衛生協議大會ヲ開催シ爾後毎年之ヲ開催シテ頗ル盛況ナリ。毎回文部大臣ノ諮問事項ニ就キテノ審議各團體提出ノ

諸種ノ協議問題ノ討議ヲナシ知名ノ士ノ講演ヲ聽取シテ互ニ裨益スル所大ナリ。一九二四年大成功裡ニアリシ全國體育デーモ實ニ本會ノ發議ニ係ルモノナリ一九二五年度ニ於テハ之ヲ大阪市ニ開催ノ豫定ナリ。

#### 3、日本體育聯盟

日本全國並ニ殖民地ニ於ケル體育團體ヲ加盟者トシテ其ノ聯絡協調ヲ保チ本邦體育ノ普及發達並國民精神ノ發揚ヲ圖ルヲ目的トシテ一九二四年五月設立セラレ事務所ヲ文部省内ニ置キ講習會、印刷物刊行、體育運動ノ實演並實地指導及其他ノ加盟團體ノ事務發展ニ關スル事項並各方面ノ諮問ニ答申シ又ハ質疑ニ應スルコト等ヲ事業トシテ漸次健全ナル發達ヲ遂ケツ、アリ。

#### 4、各地ニ於ケル學校衛生團體

別項ニ掲ケタル學校醫會若ハ學校衛生會ハ府縣郡市ノモノ合セテ三百有餘アリテ何レモ學校衛生ニ關スル調査研究ヲナシ各地ノ學校衛生ニ貢獻スル所尠カラス、尙體育運動獎勵ヲ目的トスル體育運動團體ヲ組織スルモノ七五八内本省ニ於テ法人ノ許可ヲ與ヘタルモノ九アリ。

(一九二四年十一月三十日記)

(B) 校地校舍校具其ノ他ノ設備ノ衛生、疾病ノ豫防治療飲  
料水竝ニ食物、女教員産前産後ノ休養等ニ關スル事項

文部省學校衛生官 岩 原 拓

本省學校衛生課醫務掛ニ於テハ校地、校舍、校具其ノ他ノ設備ニ關スル衛生、疾病ノ豫防治療、飲料水及ヒ食物ノ衛生、女教員ノ産前産後ノ休養ニ關スル事務ヲ取扱ヒ此等ノ事項ニツキ指導監督ヲナス。

一、校地校舍校具其ノ他ノ設備ノ衛生ニ關スル事項

(一) 校地校舍校具其ノ他ノ設備ノ衛生ニ關シテハ學校設置ニ際シ適當ニ指導監督ヲナス方針ヲ取レリ、近時建築方法竝ニ諸用品ノ進歩ニ伴ヒ學校ノ設備ハ舊觀ヲ改メツツアリ、從來ノ木造建築カ耐火構造ニ改變セラルル傾向ニ在ルハ其ノ著シキ例ナリ、從テ土地ノ衛生法建物ノ衛生法等モ漸次變化シ來リ採光、通風、採暖、清潔方法等合理的ニ行ハルルニ至レリ、校具ノ中最モ重要ナル机、腰掛ニ就テハ次ニ掲クル如キ校用机、腰掛ノ標準ヲ示シ、各地ニ於テ具體的ノ方案ヲ作成セシメツツアリ

(二) 學校用机、腰掛ノ作製及ヒ用上ノ標準ニ付一九二一年八月通牒ヲ發シタリ、其ノ要點ハ左ノ如シ

(1) 腰掛

イ、腰掛ノ座面ノ高サハ下腿ノ長サ(腓骨小頭カラ踵ノ下面ニ至ル長サ)カラ五分ヲ減シタルモノヲ標準トスル。但シ履物アル場合ハ其ノ厚サヲ下腿ノ長サニ加ヘタルモノカラ五分ヲ減スルコト。  
ロ、腰掛ノ座面ノ左右經ハ二人掛ニアツテハ二尺六寸乃至九寸五分、一人掛ニアツテハ一尺四寸五分トスル。

ハ、腰掛ノ座面ノ前後經(倚靠ノ厚サハ含まナイ)ハ上腿ノ長サ(大腿骨大轉子カラ同骨下端外上髁ニ至ル長サ)ヲ以テ標準トスル。

ニ、腰掛ノ座面ヲ刳リ又ハ傾斜ヲ附ケルノハ任意トスル。  
ホ、倚靠ハ附ケル方カヨイ。

(2) 机

イ、机面ノ高サハ先キニ定メタ腰掛ニ正座シテ前臂ヲ直角ニ曲ケタ時ノ下面カラ、腰掛ノ座面ニ至ル距離ニ七分乃至一寸三分ヲ加ヘタルモノト腰掛ノ座面ノ高サヲ合セタモノトスル。

ロ、机面ノ左右經ハ二人用ニアツテハ三尺四寸五分乃至九寸五分、一人用ニアツテハ一尺九寸五分トスル。

ハ、机面ノ前後經ハ一尺二寸以上トスル。

- ニ、机面ハ約六分ノ一ノ傾斜ノアルノカヨイ、但シ止ムヲ得ナイ場合ハ水平面トシテモ差支ナイ。
  - 3、机、腰掛ハ一人用カヨイ、止ムヲ得ナイ場合ハ二人用トシテモ差支ナイ、但シ特別用ノモノハ此ノ限リフナイ。
  - 4、机、腰掛ハ在學兒童身體ノ發達ヲ顧慮シ尋常小學校ニアツテハ少ナクモ六種尋常、高等小學校ニアリテハ少ナクモ八種ノ大キサヲ異ニシタモノヲ作製シテ置クカヨイ。
  - 5、机、腰掛ヲ使用スルニハ學科ノ種類ニ依リ適當ナ離尺ヲ保タセル様ニ注意シナケレハナラナイ。
  - 6、机、腰掛ハ兒童ノ身體ノ發達ニ應ジテ毎年一回以上組換ヘナケレハナラナイ。
  - 7、以上ノ標準ハ主トシテ小學校兒童ニ對スルモノデアル。
- 故ニ其ノ他ノモノニアツテハ使用者ノ身體發育ノ程度ニ應ジテ適當ニ斟酌スヘキデアル。

### 二、疾病ノ豫防治療ニ關スル事項

#### (一) 學校傳染病豫防

學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ急性並ニ慢性ノ傳染病(第一類——十種法定傳染病、第二類——百日嗽、麻疹、流行性感冒、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、第三類——肺、喉頭其他ノ機關ノ開放結核、癩、第四類——「トラホーム」、其他ノ傳染性眼炎、疥癬、其他ノ傳染性皮膚病)ニ關シテハ學校傳染病豫防規程ヲ發布シ

テ其ノ豫防及ヒ監督上遺憾ナキヲ期ヤリ。

現行規程ハ一九二四年九月ノ改正ニ係リ傳染病豫防法、「トラホーム」豫防法、結核豫防法ニ則リ特ニ罹患後ノ昇校停止期間ヲ定メタリ、本省令ニ基キ地方ニテハ更ニ同規程施行細則等ヲ發セルモノ尠ナカラス同規程ニ據リ文部省ニ報告アリタル中等學校及專門學校ノ寄宿舎ノ傳染病發生狀況左ノ如シ

病類別發生件數表 (自一九二三年九月一箇年 至一九二四年八月)

病名	發生件數	患者數
腸「チフス」	四二	八二
同 疑 似 症	二四	二四
「バラチフス」	一一	四三
赤 痢	二〇	三二
同 疑 似 症	一五	二九
猩 紅 熱	四	一七
「チフテリア」	四	四
流行性感胃	一	一
計	一〇二	二二二

## (二) 近視ノ豫防

學生、生徒兒童ノ近視ハ學校程度ノ進ムニ從ヒ其ノ數ヲ増シ毎年少シツツ増加スル傾向アリ本省ハ一九一九年兒童生徒及ヒ學生ノ近視豫防ニ關スル注意方ヲ訓令セリ。

一九二〇年度身體檢査成績ニ基ツキ學生生徒ノ近視眼ノ年齡的關係ヲ調査セル結果ハ之ヲ附表ニ掲ク

## (三) 「トラホーム」ノ豫防

學生生徒兒童ノ「トラホーム」患者ハ我國ニ於テハ少數ナラス一九二〇年度身體檢査成績ニ基ツキ「トラホーム」患者ノ年齡的關係ヲ調査セル結果ハ附表ニ掲ケタル如ク、小學兒童ニハ比較的多數ナルモ上級學校ノ生徒學生ニテハ少數トナル。

本病ノ豫防ハ學校傳染病豫防規程ニ據リ行フモノナリ。

## (四) 結核豫防

## (イ) 學生生徒兒童ノ結核豫防

學生生徒兒童ノ結核豫防ニ關シテハ定期又ハ臨時身體檢査ニ於テ其ノ發見ニ努メ其ノ際發見シタル者及他ノ場合ニ發見セラレタル患者ニツキテハ學校傳染病豫防規程ニヨリ豫防處置ヲ講ス

腺病、榮養不良、其他身體虛弱者ニシテ身體抵抗力弱キ者ハ結核ニ胃サレ易キヲ以テ其養護ニ就テハ各地ノ情況ニ應シ林間學校、休暇聚落、學校給食等ノ施設ヲナシ又設備衛生、教授衛生、體育運動等ニ於

テモ日常特ニ衛生上ノ注意ヲ拂フ様指導セリ、將來ハ結核ニ對スル豫防教育ヲ十分ニナス計劃ナリ又中等學校以上ノ學校入學時身體檢査ニ於テハ結核性疾患ヲ有セル者、又ハ其疑アル者ハ入學セシメサルヤウ注意セリ。

## (ロ) 教員ノ結核豫防

教員ノ結核豫防ニ關シテハ本省ノ特ニ留意スル所ニシテ一九一三年六月小學校教員ニ結核ノ豫防ニ關シ在職中ノ教員ニ就テハ其ノ健康狀態ニ注意シ師範學校入學時並教員採用時等ノ身體檢査ニ於テ特ニ本病ニ留意スヘク訓令ヲ各地方長官宛ニ發シテ豫防撲滅ヲ督勵シ又一九一五年四月省令ヲ以テ公立小學校教員疾病療治料ニ關スル準則ヲ定メ小學校教員ニシテ兒童ノ衛生上特ニ考慮スヘキ疾病ニ罹リ休職又ハ退職スル者ハ教員資金(國庫負擔)ヨリ疾病療治料ヲ給與スルコトト爲セリ。

## (五) 其ノ他ノ疾病

上述ノ外齶齒、聽力障害、耳疾、咽喉病、外傷傳染性皮膚病ノ年齡的關係ニツキ一九二〇年度身體檢査成績ノ結果ニ基ツキ調査セル所ハ之ヲ附表ニ示ス

## (六) 豫防教育

疾病ノ豫防ニ關シテハ學生生徒兒童ニ對シ豫防教育ヲ施スコト頗ル必要ナリ。現在ニ於テハ日常學校教員又ハ學校醫ノ教授、講話ニヨリ又特ニ學校衛生日ノ施行等ニヨリ相當ニ行ハレツツアルモ未タ十分ナラサ



ル憾アルヲ以テ將來ハ一層豫防教育ノ徹底ヲ圖ラントス。

(附表) 學生生徒兒童疾病年齡別調査

本調査ハ身體検査ニヨリ發見セラレタル疾病ノ年齡的關係ヲ知ランカタメニ文部省年報一九二〇年度身體検査統計表ニ基キ集計ヲ試ミタルモノナリ。

(一) 學生生徒兒童疾病年齡別表 (男子)

年齡	検査人員	龋齒	近視	トヲホ	其他ノ疾	聽力障害	耳疾	咽喉病	鼻病	傳染性病
七	一八三,三九九	四九,九七		三三,四四	二,九		二,八八	二,〇四	〇,六〇	一,三
八	一八四,一〇〇	四九,五〇		三三,〇七	二,一五		二,六三	一,二六	〇,〇〇	一,五
九	一八七,三一一	四八,四二		一四,六四	一,八三		二,三三	二,〇三	一,四七	一,九
一〇	一九三,〇七	四四,五五		一四,七	一,七		二,三	二,一四	一,四	一,六
一一	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
一二	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
一三	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
一四	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
一五	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
一六	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
一七	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
一八	一九七,三三	四三,五六		一四,一四	一,〇七		一,九	二,一四	一,〇	一,六
計	一〇,八一一	三,九四	一一,八五	三,七〇	一,七	一一	一,七	二,一八	〇,〇	一,七

(二) 學生生徒兒童疾病年齡別表 (女子)

年齡	検査人員	龋齒	近視	トヲホ	其他ノ疾	聽力障害	耳疾	咽喉病	鼻病	傳染性病
七	一五,二八八	四,八一		一五,七〇	二,三		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
八	一七,六六	四,七		一六,一一	二,三		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
九	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一〇	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一一	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一二	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一三	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一四	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一五	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一六	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一七	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
一八	一六,二六	四,六		一六,一〇	二,四		〇,二	一,七	〇,七	〇,一
計	一四,一五五	四,〇	四,七	三,九	一〇,一	二,六	〇,二	一,六	〇,六	一,〇





一九一一年ヨリ一九二〇年ニ至ル最近十箇年ニ於ケル各種學校ノ一般半途退學者及ヒ病氣半途退學者ノ數ヲ集計觀察シタル結果ハ左表ニ示ス如シ

最近十箇年通計半途退學者  
病氣退學者學校別調査 (自一九二〇年)

學校種類	在籍生徒數ニ對スル半途退學者數%	在籍生徒數ニ對スル病氣退學者數%
帝國大學	五、二二	—
官立高等學校	四、一八	〇、八九
官立專門學校	一九、二八	一、四三
官立實業學校	四、六五	〇、九五
官立醫學專門學校	三、〇八	〇、四〇
高等師範學校	六、八七	一、九六
師範學校	三、七六	一、四八
公立中學校	一二、二九	一、七〇
公立實業學校	一〇、三二	一、〇九
女子高等師範學校	三、三五	二、〇一
女子師範學校	二、五五	一、三二

公立高等女學校	九、六一	一、〇一
計	九、六一	一、三三

### 五、女教員ノ産前産後ニ於ケル休養ニ關スル事項

女子勞働者ノ産前産後ニ於ケル休養ノ必要ニ關シテハ先年國際勞働會議ニ於テ議セラレタル所ナリ、女教員ニ於テモ妊産婦、産兒保護ノ立場ヨリ其ノ必要ヲ認メ一九二二年九月本省訓令ヲ發シテ該休養ノ件ヲ規定セリ其ノ要點左ノ如シ

- 1、分娩後六週間休養ヲ爲サシムルコト
- 2、醫師ノ診斷書ニ依ル分娩豫定日前二週間休養ヲ爲サシムルコト、但シ特別ノ事情アル場合ニ在リテハ産婆ノ證明書ヲ以テ醫師ノ診斷書ニ代フルヲ得
- 3、前號ノ分娩豫定日ヲ超エテ尙分娩セサル場合ニハ事實分娩アルマテ休養ヲ繼續セシムルコト

(一九二四年十一月三十日記)

(C) 教授衛生、身體檢查、衛生教育、精神薄弱者ノ監  
督養護ニ關スル事項

文部省學校衛生官

大西 永次郎

一、緒言

文部大臣官房學校衛生課教授衛生掛ニ於テハ一般教授衛生、精神衛生、身體檢查、精神檢查、精神薄弱者ノ監督養護ニ關スル事務ヲ分掌シテ居ルノテアル、我國ニ於テハ教授衛生ヲ極メテ廣義ニ解釋シ學生生徒兒童ノ教授學習ニ伴フ身心ノ疲勞ニ注意シ學校作業ヲ合理的衛生的ニ實施シ以テ消極的ニ身心ノ健康ヲ保全セシムルハ勿論素質ト環境トヲ顧慮シテ教材ノ程度ノ教授ノ方法等ヲ加減シ以テ積極的ニ教育能率ノ増進ヲ企圖スル方面ニモ特別ノ注意ヲ拂ヒ教育上ノ實際施設ト密接ナル連絡ヲ保持シツツ或ハ文書ニ依リ、或ハ通牒訓令等ニ依リ、或ハ講習會講演會等ニ依リ教授衛生ノ必要ト意義トヲ宣傳シ其ノ普及ニ努力スル等、銳意學校學生ノ振展ニ關シ遺憾ナキヲ期シテ居ル。左ニ我國ニ於ケル教授衛生施設ノ概況并ニ本掛事務ノ概要ヲ記述スルコトトスル。

二、教授衛生ニ關スル事項

日本ニ於ケル教授衛生ノ諸問題ハ既ニ文部省教育法規ノ中ニ明記セラレテ居ルモノカ少ナクナイ。小學校令施行規則第一條ノ中ニハ『兒童ノ身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ、何レノ教科目ニ於テモ其ノ教授ハ兒童ノ身心發達ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス』ト規定セラレ、教授訓練ノ實際ニ際シ衛生上ノ注意ヲ拂フヘキコトヲ要求シテ居ル更ラニ小學校令第三十三條ニハ特殊兒童ノ入學猶豫免除ノ事カ規定セラレ『學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學不可能ノ場合ニハ就學免除ノ途カ講セラレ、病弱又ハ發育不完全ノ場合ニ於ケル就學猶豫ノ方法』カ講セラレテ居ル。茲ニ甚タ遺憾ナルハ之等免除又ハ猶豫ヲ受ケタル兒童ニ對シ學校衛生上特別ノ施設カ規定セラレテナイ一事テアルカ近時學校衛生ノ進步ニ伴ヒ就學前兒童身體檢查ヲ施行スルモノ次第ニ其ノ數ヲ増加シ之レニ依リテ入學以前ニ於ケル發育ノ促進疾病ノ治療等種々ノ方途カ講セラルルニ至ツタノテアル。免除兒童ニ對シテモ或ハ府縣立或ハ私立ノ白痴收容所カ少ナクナイ、東京市郊外澁ノ川學院ノ如キハ日本ニ於ケル有名ナル白痴院テアル。其ノ他東京府下高圓寺柏倉學園ハ日本ニ於ケル唯一ノ不具者學校テアル。

盲聾啞兒童ノ教育ハ日本ニ於テハ他ノ特殊兒童ニ比シ夙ニ一般ノ注意ヲ喚起シ、官公私立ノ學校モ殆ント全國ニ普及シテ居ツタノテアルカ最近盲學校令并ニ聾啞學校令カ發布セラレ此ノ種兒童ノ普通教育ハ殆ント完成ノ域ニ達セントシテ居ル。國立ノ盲學校及聾啞學校ハ東京ニ設立セラレ道府縣ニハ公立ノモノカナリ、其ノ他私立團體又ハ私人ノ設置ニカカル此ノ種ノ學校ハ甚タ多イ。

學校ニ於ケル懲罰ハ身心ノ發達未タ幼弱ナル兒童ニ對シテハ教授衛生上重大ナル關係ニアルモノテアルカ  
ラ小學校令第四十七條ニ於テハ『學校長及教員ハ教育上必要ト認めタル時ハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得ル  
モ體罰ヲ加フルコトヲ得ス』ト規定セラレテ居ル近時日本ニ於テハ兒童中心自由開發主義ノ教育思潮カ教育  
界ニ主張セララルルニ伴ヒ兒童愛護ノ精神ハ漸次教育者ノ頭ヲ支拂スルニ至リ、兒童ノ身心養護ノ方面ニ於テ  
ハ甚タ満足スヘキ幸福ノ状態ニ置カレツツアルト云フコトカ出來ル。

日本ニ於ケル教授衛生并ニ生徒兒童ニ對スル精神衛生ノ中最モ重要ナル問題ハ目下ノ處中等學校入學試験  
并ニ之レニ伴フ準備教育ニ關スル問題テアル。最近十數ケ年間ニ於ケル日本國民ノ向上心ハ眞ニ顯著ナル發  
達ヲ爲シ、小學校ヲ卒業セル兒童ノ大半ハ何レモ中等學校特ニ中學校高等女學校ヘト志望スルノテアル。之  
等ノ志願者ヲ收容スヘキ中等教育機關モ同様近時著シキ發達ヲ遂ケ學校ノ數ニ於テモ收容人員ニ於テモ優ニ  
數倍ノ増加ヲ來タシタノテアルカ未タ志望者ノ總テヲ收容スルコトカ出來ナイ。且ツ學校ノ種類優劣等ノ關  
係カラ都會ニ於ケル優良ノ學校ヘハ自然志望者殺到スルニ至リ收容人員ニ對スル志望者ノ數ハ數倍乃至十數  
倍ヲ呈スル學校モ少ナクナイ。從ツテ激裂ナル競争試験ヲ通過スルニアラサレハ相當優良ナ學校ニ入學スル  
コトカ出來ナイ。之等ノ狀況ハ主トシテ大都市ニ於テノミ見ラレタノテアルカ、近時ハ中小ノ都會ハ勿論ト  
ンナ片田舎ノ中等學校テモ相當ノ競争試験カアツテ其ノ爲メ入學準備ノ特別教育カ學校及家庭ニ於テ實施セ  
ラルルト云フ状態テアル。斯クテ小學校卒業期ニアル日本兒童ノ身心ハ非常ニ不良ナル境遇ニ置カルルノ已

ムヲ得サル狀況ニアルノテ心アル教育者教育官憲學校衛生ノ方面カラ多クノ調査研究カ提供セララルルニ至ツ  
タノテアル。之等ノ内本省學校衛生課ノ調査ニカカル主ナル事項ニ就キ其ノ概要ヲ摘録スルト左ノ通りテア  
ル。

本省ニ於テハ之等ノ研究ヲ基礎トシテ一面中等教育機關ノ擴張ヲ圖ルト共ニ小學校ニ於ケル過度ノ試験準  
備ノ弊害ヲ舉ケ尙入學試験方法ノ改善等ニ依リテ漸次好結果ヲ得ツツアル。地方ニ依リテハ規定ヲ設ケテ小  
學校ニ於ケル準備教育ヲ嚴禁シ或ハ教育會教員協會等ノ決議ニ依リ自發的ニ廢止ヲ申合セル等本問題解決ノ  
時期モ遠クナイテアロウ。

試験カ生徒兒童ノ身心ニ及ホス影響ハ可成重大テアルノテ教授衛生ノ立場カラモ夙ニ注意セラレテ居ル處  
テアル。

日本ニ於テハ已ニ(一八九四年)兒童ノ體育、精神衛生ノ立場カラ文部省訓令ヲ以テ『試験ニ依ル席順ノ上  
下ヲ廢セシメ』次テ(一九〇〇年)再ヒ訓令ヲ發シテ『學年ノ修了教科卒業等ニ際シテモ平素ノ成績ヲ考查シ  
テ之レヲ認定シ、試験ノ方法ニ依ラサルコト』トシ以テ發育期ニアル兒童身心ノ養護ニ努ムル處アリ。尙女  
子師範學校高等女學校ニ於テハ女子ノ特性ニ鑑ミ特ニ訓令シテ一時ニ全教科ノ試験ヲ行フコトヲ禁シテ居ル  
其ノ他ノ中等學校等ニ於テモ漸次試験制度ノ非ヲ悟リ平素ノ成績ニ重キヲ置クノ傾向ヲ認ムルコトヲ得ルモ  
高等教育ニ於テハ今尙主トシテ試験ニ依リ課程ノ修了ヲ認定スルモノカ多イ。最近本省學校衛生課ニ於テハ

一、普通教育ニ於ケル教授時限及休憩時間ニ關スル調査、二、兒童生徒ノ携帶品ニ關スル調査、三、小學校ニ於ケル休業日ニ關スル調査、四、通學距離ニ關スル調査、五、宿題ニ關スル調査等ヲ行ツタノテアルカ、之等ハ教授衛生上カラ見テ漸次改善ノ實ヲ舉ケツツアルノハ獨リ兒童生徒ノ幸福ノミニ止マラナイテアロウ。

### 三、身體検査ニ關スル事項

#### 1、定期身體検査

學生生徒兒童ノ身體検査ハ日本ニ於テハ已ニ明治二十四年(一八九一年)頃カラ活力検査トシテ特殊ノ學校ニ於テ實施セラレ學校衛生上有益ナル資料トナツテ居ツタノテアルカ明治三十三年(一九〇〇年)ニ至リ文部省令ヲ以テ學生生徒及幼兒身體検査規程カ發布セラレ全國ノ官公私立ノ學校ニ於テハ毎年四月ヲ期シテ一齊ニ施行セラレ其ノ結果ハ一定ノ統計表トナツテ六月限り一部ハ直接ニ一部ハ地方廳ヲ經テ文部省ニ報告セラレ本省ニ於テハ更ラニ全國ノ統計表ヲ集計シテ或ハ學校別ニ或ハ年齢別男女別ニ或ハ累年比較等ニ就キ調査ノ結果ヲ年々文部省年報トシテ發表シ我國學生生徒兒童ノ發育疾病等ノ状態ヲ窺フ上ニ多大ノ利便ヲ與ヘテ居ツタノテアル。

次テ大正七八年頃ニ至リ日本ニ於ケル學校衛生ハ顯著ナル進歩ヲ爲シ實際上ノ施設ハ勿論研究調査ノ方面ニモ見ルヘキモノ多キヲ加ヘ從ツテ時代ノ進運ニ伴フ身體検査規程改正ノ聲カ處々ニ起ルニ至ツタノテ大正

九年(一九二〇年)文部省令ヲ以テ右規程ノ改正ヲ行ヒ爾來引續キ該規程ニ據リ全國ノ官公私立學校ニ於テ身體検査カ實施セラレテ居ルノテアル。

身體検査ノ實施ハ各學校ニ配屬セル學校醫之レヲ行フコトニ定メラレ、學校看護婦、學校教員之レヲ補助スルコトニナツテ居ル特ニ眼科醫耳鼻咽喉科醫齒科醫等ヲ臨時囑託シテ身體検査ヲ行フモノ漸次増加ノ傾向カアリ統計上ニ現ルル榮養疾病及異常ノ判定ノ如キモ次第ニ細密ニ亘ラントスルノ狀況テアル。

日本ニ於ケル學生生徒兒童ノ身體検査ハ目下ノ規程ニ依レハ普通教育ニ於テモ高等教育ニ於テモ同一ノ検査票ニ依リ同一ノ項目ニ就テ實施セラレテ居ル。然シテ累年式トシテ同一學校在學中ハ入學ヨリ卒業ニ至ルマテ同一検査票ニ記入セラレルコトニナツテ居ル。學校ヲ單位トスル身體検査統計表モ亦文部省令ニ依ツテ規定セラレテ居ル。

目下ノ規程テハ身體検査ハ左ノ項目ニツキ施行セラレテ居ル。一、發育(身長、體重、胸圍、概評)。二、榮養。三、脊柱。四、視力及屈折狀態。五、色視。六、眼疾。七、耳疾。八、聽力。九、齒牙。一〇、其ノ他ノ疾病及異常。一一、監察ノ要否。

然シテ疾病及異常ニ關シテハ特ニ注意スヘキ疾病トシテ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大「ヘルニヤ」神經衰弱、精神障礙等カ舉ケラレテ居ル以テ日本ノ學生生徒兒童ニ對シ學校衛生上如何ナル疾患カ重要視サレテ居ルカラ知ル事カ出來ル。



検査ノ結果身心ノ健康状態不良ニシテ學校衛生上特ニ注意スヘキ者ニ對シ學校醫ノ繼續的監察ヲ要求セル等モ日本ニ於ケル學校衛生制度ノ特徴ト云フコトカ出來ル。

日本ニ於ケル學生生徒兒童ノ身體検査ハ其ノ全國的ナル點ニ於テ之レニ參加セル人員ノ多數ナル點ニ於テ全國ヲ統一セル規程ニ依リテ同一時期ニ施行セラルル點ニ於テ將又二十有餘年來連綿トシテ實施シ來タツタ點ニ於テ恐ラク世界ノ何レノ文明國ニモ比較スヘキモノカナク其ノ統計上ニ現ハレタル數字ノ如キハ本邦ニ於ケル學生生徒兒童ノ發育状態ヲ知ル上ニ誠ニ信憑スルニ足ルモノテアツテ此ノ種統計中最モ重要ナル地位ヲ占メ甚タ貴重ナル資料ヲ成シテ居ルモノテアル。尙明治三十三年(一九〇〇年)以來ノ累年比較學生生徒兒童身體發育統計表ノ如キハ明治大正ニカケテ本邦兒童生徒ノ發育ノ變遷ヲ知ル上ニ極メテ貴重ナル材料テアル。特ニ最近本省學校衛生課ノ發表ニカカル身長、體重、胸圍二十一ヶ年間平均年齢別發育統計ノ如キ各年齢ノ參加人員二百萬ヲ越ヘ七年乃至二十五年ノ合計ハ二千萬ニ近ク更ラニ男女ヲ合スル時ハ實ニ四千萬餘ノ學生生徒兒童ニ關スル平均數ニシテ從ツテ統計上ノ數字信賴ノ程度カ如何ニ高キカヲ知ルコトカ出來ル。

### 2、學校職員身體検査

學校衛生ノ振興ニハ教師其ノ人ノ健否カ至大ノ關係ヲ有スルトノ見地カラ小學校教師ノ身體検査ヲ實施スルモノカ少ナクナイ。文部省トシテハ未タ特別ノ規定ヲ設ケナイカ地方廳ニ於テハ或ハ縣令訓令等ヲ發シ生徒兒童身體検査ノ時期ヲ利用シ或ハ特別ノ日ヲ定メ之レヲ行ツテ居ル、検査者ハ地方學校衛生技師學校醫等

### 3、就學前兒童身體検査

學校衛生ノ發展ニ伴ヒ就學兒童ノ衛生状態ニ注意スルニ至リ其ノ結果傳染性ノ疾患乃至輕微ノ病氣ハ之レヲ入學ノ以前ニ於テ夫々家庭ニ於テ治療養護ノ途ヲ講スルノカ最モ必要テアルノミナラス入學後兒童ノ取扱ノ上カラモ或ハ入學免除猶豫ノ處理ヲ適切ナラシムル爲ニモ或ハ進テ入學前兒童ニ對シ特別ノ養護施設ヲ講スル上カラモ此ノ種ノ検査カ極メテ必要テアルトノ見地カラ近時地方廳ニ於テハ訓令通牒等ヲ發シテ該兒童ノ身體検査ヲ施行セルモノカ漸次多キヲ加ヘテ居ル、検査ノ時期ハ大抵四月入學スヘキ兒童ニ對シ其ノ年一月中ニ施行シ相當ノ効果ヲ收メテ居ル。

### 4、職業選擇身體検査

小學校卒業ノ兒童ニ對シ彼等カ社會生活ノ基礎ヲ爲スヘキ選職ノ爲メノ身體検査ハ日本ニ於テハ其ノ發達尙微々タルモノテアル、然シ學校衛生課ニ於テハ社會教育課ニ於ケル職業指導ノ獎勵ト相俟ツテ自己ノ體力才能ニ適應シタル職業ヲ選擇スルコトノ極メテ必要ナルヲ認メ一九二四年度學校衛生講習會ニ於テハ特ニ職業選擇ナル科目ヲ加ヘタ地方ノ小學校等ニ於テモ精神検査ト共ニ選職ノ爲メノ特別身體検査ヲ施行スルモノノ漸ク多カラントスルノ狀況テアル。

### 附 精神検査

日本ノ學校ニ於ケル精神検査ハ極メテ最近ノ發達ニ屬スルモノテアルカ之レカ應用ハ主トシテ前述入學試驗準備ノ緩和策乃至適材選抜ノ意味ニ於テ入學試驗ニ用ヒラレ尙ホ特別學級ノ編制個別指導教授學生能率増進等ノ立場カラ精神検査ヲ實施スルモノ漸次多カラントスルノ傾向ヲ認ムルコトカ出來ル。其ノ他教育的測定等モ教育効果ノ科學的批判法トシテ之レヲ應用セントスルモノモ稀テハナイ。

#### 四、衛生教育ニ關スル事項

小學校教育ニ於テ學生ニ關スル教授訓練ヲ徹底セシムルコトハ他日國民トシテ社會生活ヲ營ム上ニ於テモ個人并ニ公衆衛生ヲ充分理解セシムルコトカ容易テ個人ノ幸福ト國民ノ健康ヲ増進スル上ニ甚タ緊要ナル事柄テアル。從ツテ我カ學校衛生ニ於テモ可ナリ多クノ注意ヲ此ノ點ニ拂ツテ居ルノテアル。

日本ニ於ケル小學校教育ニ於テハ衛生トシテノ特別ノ科目ハナイカ修身國語、理科等ニ於テ所々ニ人體ノ解剖生理及衛生ノ大要カ掲ケラレテ居リ、又體操科ニ於テモ健康増進法ニ關シ教師ノ指導セルモノカ多イ高等科女兒童ニ對シテハ家事科ニ於テ衣食住疾病看護育兒ノ大要ヲ授ケルコトニナツテ居ル。

中等教育ニ於テハ特ニ博物科ノ中ニ生理及衛生ノ學科カアツテ人體ノ解剖生理疾病ノ豫防個人衛生公衆衛生救急療法等ノ知識カ授ケラルルノテアル。尙高等女學校ニ於テハ其ノ他ニ家事科ニ於テ衣食住看病育兒等ニツキ稍進ンタ知識カ授ケラルルノテアル。

教員養成機關タル男女師範學校ニ於テハ生理及衛生并ニ家事科ノ外特ニ教育科中ニ學校衛生ノ項カアリ文部省訓令師範學校教授要目ニ於テ設備管理ト共ニ採光通風暖房清潔法教授上ノ衛生身體検査學校傳染病救急療法ノ大要ノ數項カ舉ケラレテ居ル。

然シ師範教育ニ於ケル學校衛生ノ教授ハ小學校ニ於ケル學校衛生ヲ進メル上ニ極メテ必要ナルハ勿論近時學校衛生ノ内容モ著シク進歩シ其ノ關係スル範圍ノ如キモ非常ニ廣汎ニ亘ルニ至ツタノテアルカラ地方ノ師範學校ニ於テハ自然ノ必要ニ迫マラレ右要目ノ外特ニ緊要ナル體育運動身體虛弱者及精神薄弱者等ノ監督養護學校給食學校看護婦等重要ナル多クノ事項カ教授セラレテ居ル。文部省最近ノ調査ニ依レハ全國師範學校ニ於ケル學校衛生教授ノ情況ハ近時著シク改善ノ機運ニ向ヒ其ノ教授時數ノ如キモ最高四十時間ヲ充當スルモノアリ十時間乃至十五時間ヲ配當セルモノカ多イ、教授要目ノ如キモ最近ノ學校衛生ノ進境ニ伴ヒ内容ノ充實セルモノカ少ナクナイ、然シテ地方廳ニ於ケル學校衛生技師カ漸次コノ方面ニ參加スルニ至ツタコトハ特ニ注目スヘキ事柄テアル。

衛生ノ訓練方法トシテハ小學校ニ於テハ學校教師學校看護婦等ニ依リテ兒童ニ衛生清潔ノ習慣ヲ養成セシムル爲メニ種々ノ施設カ試ミラレテ居ル或ハ衛生検査清潔検査服裝姿容検査等ト稱セラレ主トシテ始業前校庭ニ於テ頭髮顔面口腔手足皮膚衣服等ノ清潔狀況カ検査セラル、或ハ學校ニ於テ一齊ニ齒磨ノ練習髮洗瓜切等ノ指導カ與ヘラレ或ハ衛生デー衛生週間ト稱セラレ衛生思想ヲ體得セシムル爲メニ各種ノ施設ニ努力セル



地方が少ナクナイ。一九二四年十一月三日ヲ期シテ日本全國并ニ各殖民地ニ齊ニ舉行セラレタ「全國體育デー」ハ體育運動ノ國民的宣傳ハ勿論衛生思想ノ普及ノ上ニモ非常ナル効果ヲ期待スルコトカ出來タノデア。今後毎年一回コノ日ヲ國民的體育デートシテ學校ヲ中心トシテ廣ク一般民衆ノ間ニ體育ノ思想宣傳ニ努カスルコトニナツテ居ル。

### 五、精神薄弱者ノ監督養護

日本ニ於テハ「精神薄弱ナル生徒兒童ノ數ハ未タ全國的ノ調査カナイカラ其ノ詳細ヲ知ルコトハ出來ナイカ、東京市其ノ他ニ於テ部分的ニハ醫學的心理學的ニ可成精密ナル調査カ行ハレテ居ル。之等ノ結果ヲ綜合スルト、現今小學校ニ在學スル兒童ノ中ニハ素ヨリ程度ノ差アルカ百人ニ付二人乃至三人平均二・五%位ノ精神薄弱者カ存スルト見テ大ナル誤ハアルマイ、從ツテ日本ニ於ケル現今學齡兒童ノ數ヲ一千万トスレハ約二十五萬ノ精神薄弱兒童カ存在スル譯テアル。

コノ種兒童ニ對スル特殊ノ監督養護ノ施設ハ極メテ最近ノ發達ニ屬シ今ヨリ十年前ニ於テハ特別ノ研究的施設ニ於ケルモノノ外殆ント一般教育界ノ注意ヲ喚起スルニ至ラナカッタノデア。然ルニ大正五六年ノ頃カラ一方普通兒童ニ對スル教育ノ效果ヲ徹底セシムル爲メ他方所謂英才教育ノ主張カ教育界ニ叫ハルルニ至ツテ、精神薄弱者ニ對スル特殊教育ノ施設モ大ニ其ノ必要カ認メラルルニ至リ教育者側カラハ所謂低能兒教

育トシテ醫家ノ方面カラハ、此ノ種兒童ノ身心養護ノ立場カラ相携ヘテ此ノ種ノ施設カ次第ニ勃興スルニ至ツタノデア。文部省ニ於テハ未タ之等ノ兒童ニ對スル特別教育ノ法規ハナイカ文部省分課規程中ニハ學校衛生課ニ於テ精神薄弱者ノ監督養護ニ關スル事務ヲ分掌スルコトカ規定セラレ普通學務局第四課ニ於テハ特殊教育ニ關スル事務ヲ分掌スル旨カ定メラレテ居ル。

尙精神薄弱者ニ對スル調査機關トシテハ低能兒調査會カ設置セラレ醫學者心理學者教育學者等ヲ委員トシテ身心兩方面カラ兒童ノ實際ニ就イテノ調査モ開始セラレテ居ル。

最近文部省學校衛生課ノ調査ニカカル特別學級編制ノ狀況ハ概要左ノ通りテアリ、研究、施設モ殆ント全國ニ普及スルニ至ツタノデアカ然シ其ノ數ニ於テモ内容ニ於テモ未タ遺憾ノ點カ少ナクナイ、其ノ名稱ノ如キモ或ハ補助學級、促進學級、個別化學級、特別學級等ト呼ハレ未タ統一セル名稱カ存シナイ。然シ活養教育ノ方法ニ依ツテ教材ト兒童數トヲ制限シ、職業的指導ヲ目標トシテ周到ナル觀察ノ下ニ學校衛生上ノ注意ヲ拂ヒツツ訓育ヲ施ス點ハ大體ニ於テ同一テアル。

尙精神薄弱者ハ同時ニ身體ノ缺陷ヲ伴フ場合カ多ク且ツ訓育ノ必要上カラ體育運動カ重要ナ役目ヲ有シテ居ル。其ノ他榮養疲勞、睡眠、疾病等ニモ充分ナル注意ヲ拂ヒ、學校給食、學校診療所、學校看護婦ノ施設ニ注意セルモノ多シ。

特別學級ヲ編制セル府縣別學校數

北海道廳	四	東京府	二九	京都府	六
神奈川縣	三	兵庫縣	二〇	長崎縣	八
新潟縣	七	埼玉縣	一	群馬縣	一
千葉縣	七	茨城縣	一	奈良縣	四
三重縣	二	愛知縣	五	静岡縣	四
山梨縣	一	滋賀縣	二	岐阜縣	四
長野縣	ナシ	宮城縣	一	福島縣	一
岩手縣	一	青森縣	二	山形縣	一
福井縣	一	石川縣	六	鳥取縣	二
島根縣	二	岡山縣	一四	廣島縣	一〇
山口縣	三	和歌山縣	九	德島縣	三
香川縣	五	愛媛縣	五	高知縣	一
福岡縣	四	大分縣	ナシ	佐賀縣	四
熊本縣	一	宮崎縣	三	沖繩縣	三
計	一九〇校				

當該學級ニ編入スルニハ概テ學業成績ノ劣等ナルモノヲ收容シテ居ルモ其ノ程度、人數等ハ區々テアル其ノ他精神検査、身體検査、家庭調査等ヲ參考トシテ相當ノ注意ヲ拂ツテ居ルモノモアル。

各府縣ニ於ケル特別學級ノ數及兒童數ハ左表ノ通りテ全國ニ於テ三百八十三學級兒童數一萬六千二百七十一人ヲ算シテ居ルノテアルカ精神薄弱者ノ豫定數ヲ二十五萬トスレハ未タ二十分ニ過キナイノテアル。

府縣	學級數	男	女	府縣	學級數	男	女
北海道	一七	三七三	三五六	東京	三二	四一三	四一六
神奈川	七	一五八	一六六	兵庫	二五	五六四	八五〇
長崎	二二	四〇七	三八七	新潟	四	九八	一六〇
埼玉	一	二六	二二	群馬	二	五七	五七
千葉	一六	四〇七	一四四	茨城	五	七五	八一
奈良	六	一一六	一一一	三重	八	一九二	一五〇
愛知	九	一七五	一九三	静岡	八	一一〇	二二七
山梨	三	七五	七一	滋賀	三	三九	四六
岐阜	六	一三〇	一〇三	長野	一	一	一

宮城	四	七〇	一一四	福島	一	七	二
岩手	五	一〇三	一〇四	青森	七	一七六	二二二
山形	一	八	八	福島	三	三四	二八
石川	一八	三九八	三七二	鳥取	七	一五六	二三五
島根	四	三八	五九	岡山	二五	四二七	四二九
廣島	二八	六二一	六四六	山口	九	二五八	二五八
和歌山	二二	五三八	四六〇	徳島	一〇	二三九	二〇九
香川	一一	一九七	二一七	愛媛	九	一七三	一五八
高知	一	一八	九	福岡	八	二三四	一六〇
大分	一	一	一	佐賀	一六	二四	三五一
熊本	一	一〇	九	宮崎	三	九四	四一
沖繩	八	二二九	一九八	計	三八三	八、〇五二	八、二一九

右ノ内大阪、栃木、秋田、富山、鹿兒島ノ一府四縣ハ回答ナキニヨリ計算セズ

(一九二四年十一月三十日記)

### (D) 體育運動及身體虛弱者ノ監督養護ニ關スル事項

文部省學校衛生官 吉田章信

#### 緒言

##### 體育運動掛事務ノ概要

本掛ニ於ケル分掌事務ハ(一)體育運動ニ關スルコト(二)身體虛弱者ノ監督養護ニ關スルコトノ二ニ分タ

ル  
體育運動ニ關スル事務ハ甚タ廣汎ナリ。即チ學校ニ於ケル正課ノ内外ヲ問ハス又學校ノ内外ヲ論セス、學生生徒、兒童、幼兒ニヨリ行ハルル體育運動ノ實施ヲ體育ノ目的ニ合セシメ、運動ノ效果ヲ十分ニ發揮セシムルヤウ指導監督シ、尙ホ文部省所管ノ事務範圍ニ於テ一般國民ノ體育ノ普及改善ニ關シ適當ナル施設ヲ爲スモノトス。而シテ是等ノ事務ハ各種ノ學校及ヒ幼稚園並ニ一般社會ヲ通シテ(一)體育運動ノ普及、獎勵並ニ調査研究ニ關スルモノ(二)教師、指導者ニ關スルモノ(三)運動ノ教材ニ關スルモノ(四)運動ノ設備ニ關スルモノ(五)運動ノ指導教授法ニ關スルモノノ五ニ大別スルヲ得ヘシ。是等各種ノ事項ニ關シ從來小學校、中學校、高等女學校、師範學校ニ對シ主ニ施設シ來リシカ是等諸學校ノ體育運動ハ近時著シク振興シ來リタル

ヲ以テ近時尚ホ高等ノ諸學校、實業學校及ヒ社會ノ體育運動改善ニ關シ更ニ力ヲ致シツツアリ。  
虛弱者ノ養護監督ニ關スル事務ハ(一)虛弱者ノ學校内ニ於ケル醫學的監督及ヒ教授訓練上ノ取扱ニ關スル  
モノ(二)休暇聚落等特殊養護ニ關スルモノ(三)林間聚落、海濱聚落等ノ常設開放學校ニ關スルモノ等ニ大別  
スルヲ得ヘシ。

### 甲、體育運動

以下諸學校及ヒ一般社會ニ於ケル體育運動ノ概況ヲ項ヲ分チテ記述セントス。

#### 一、學校ニ於ケル正課運動ノ概況

體育運動ハ大學以外ニ於ケル各學校ノ必修科目トナリ居レリ。

#### (一) 教材

體育運動ノ教材ハ一九一三年ニ發布セラレタル文部省令ニヨリ男女師範學校、中學校及ヒ小學校ニ於テハ  
體操、教練、遊戯及ヒ武道(擊劍及ヒ柔術ニシテ女子ニハ之ヲ課セズ)ノ四種ニ大別セラル。而シテ中等實業學校及ヒ高等ノ諸學校  
等其ノ他ノ學校ニ於テハ概ネ之ニ準セリ。

體操トシテハ以前獨逸式體操ヲ主トシテ課シタリシカ大正二年教授要目ノ改正ニヨリ主トシテ瑞典式體操  
ヲ課シ、男子ニ對シテハ之ニ若干ノ獨逸式器械體操ヲ配合ス。

遊戯ハ年長兒童及ヒ中等學校以上ノ生徒ニ對シテハ競技的遊戯(アスレチックスポーツ)ヲ授クルモノ多  
シ。

教練ハ步兵操典ニ準據シテ概ネ中隊教練マテヲ授ケ一年一回ノ野外發火演習ヲ課スルモ女子ニ對シテハ兵  
式教練ヲ授クルコトナシ。

武道ハ正課トシテ課スルヲ得ルノ程度ニシテ別ニ一定ノ方式ヲ示サス。多クノ中學校、師範學校ニ於テハ  
之ヲ正課トシテ教授シツツアリ。

#### (二) 教授時間數

正課運動ノ教授時間數ハ小學校、中學校、高等女學校及ヒ高等學校ニ於テハ一週間三時間ト規定シ、中學  
校ニ於テハ別ニ三時間以内ヲ増加シ得ルコトトナリ居レリ。又師範學校男子部ニ於テハ豫備科及本科ノ年  
級ニヨリ異ルモ三―六時間、女子部ニ於テハ二―四時間ヲ規定シ中等程度並ニ專門學校程度ノ實業學校其  
ノ他ノ諸學校ニ於テハ一週一―三時間ヲ課シ居レリ。

#### (三) 運動ノ設備

運動ノ設備ニ關シテハ規定ヲ設ケテ體操場ヲ設備セシムルモノ多シト雖器械及器具ニ關シテハ國トシテ別  
ニ準則ヲ設ケス、只少數ノ府縣ニ於テ準則ヲ定ムルノミ。概ネ國及ヒ地方ノ經濟狀態ニ應シテ定メラレタ  
ル教材ノ運動ヲ行フニ足ル最小ノ程度ニ於テ設備シ、一般ニ歐米諸國ニ比シ遜色アルモ、近年著シク改善

セラレ田舎ノ小學校ニ於テモ肋木、横木、跳箱其ノ他簡單ナル運動具ヲ相當箇數準備セサルハ稀ナルニ至レリ。大都市ノ學校ニ於テ體操場ノ十分ナル敷地ヲ得ルニ困難ナル所ニ在リテハ近年屋上體操場ヲ設クルモノ漸次増加スルニ至レリ。

#### (四) 運動ノ指導教授

運動ノ指導教授ハ今尙ホ一般ニ劃一的ナルヲ免レズト雖モ、近時文部省ノ獎勵ニヨリ運動ニ關スル解剖、生理、衛生、心理等ノ科學的研究著シク教師ノ間ニ普及シ年齢、體質、性等ニ應シテ科學的、合理的ニ之ヲ行ヒ且ツ精神訓練上ノ效果ヲ發揮セシムルニ努メ、顯著ナル發達ヲ遂ケツツアリ。一般衛生ノ進歩ト共ニ學生、生徒兒童ノ身體發育ノ上ニ良結果ヲ收メツツアリ。

#### 二、學校ニ於ケル課外運動ノ概況

文部省ハ學校ニ於ケル正課運動ヲ補フ爲一九一三年要目ヲ示シテ適當ナル課外運動ヲ多數ノ男女生徒ニ行ハシメ、殊ニ近年之ヲ正シク指導スヘキコトヲ諸學校ニ對シ要望シツツアリ。課外運動ノ狀況ハ學校ニヨリ一様ナラサルモ其ノ概況左ノ如シ

#### (一) 朝禮體操

小學校、中學校、高等女學校ニ於テ多ク行ハル。

毎日始業前ニ全校ノ職員、生徒兒童運動場ニ會シテ約五—一〇分間簡單ナル徒手體操、呼吸運動ヲ一齊ニ行フモノナリ。

#### (二) 休憩時間及ヒ放課時間ニ於ケル運動

休憩時間ハ之ヲ合算スルトキハ正課體操時間ニ比シ時間數遙カニ大ナルヲ以テ休憩時間ノ運動ヲ體育的ニ指導スルノ有效ナルコト近時一般ニ教育者ニ認メラルルニ至レリ。而シテ小、中學校、高等女學校等ニ於テハ球技、跳躍、投擲技、器械體操等一般ニ行ハル。

學校ニ於ケル課外運動ハ主ニ放課時間ニ於テ行ハレ近時著ク盛ニ行ハルルニ至レリ。中等學校以上ノ諸學校ニ於テハ職員、生徒ニ於テ校友會ヲ組織シ校長ハ會長トナリ、生徒ヨリ一定ノ會費ヲ徵收ス、校友會ハ其ノ中ニ各種ノ運動部ヲ設クルヲ常トス。運動部ニハ擊劍、柔術、野球、庭球、蹴球、トラックエンドフ、イールド競技、角力、弓術、水泳、スキー、スケートイング、漕艇、バレーボール、バスケットボール、登山、乘馬等ノ各部アリ、生徒ハ各自ノ希望ニヨリ一部又ハ數部ノ運動部員トナリ、放課時間ニ於テ運動ノ練習ヲナス。最近校友會運動部ニ於ケル運動ヲ學校ノ監督下ニ一層普及セシメ且ツ之ヲ正シク指導セントスルノ傾向漸ク現ハレ來レリ。斯ノ如クナレハ體育運動ハ生徒ノ保健並ニ訓練上著シク其ノ效果ヲ増大スヘシ、小學校ニ於テモ校友會運動部ノ如キ組織漸次起ラントシツツアリ。而シテ目下多クノ小學校ニ於テハ教師交代シテ居殘リ兒童ノ放課時間ニ於ケル運動遊戲ヲ監督シツツアリ。



(三) 校外教授、修學旅行、對校競技等

各學校ハ時々春秋ノ好季節ヲ選ヒテ校外ニ遠足シ、又ハ數泊ノ旅行ヲ爲スヲ常トス、最近學校ニ於テ生徒ヲ引率シテ登山ヲ試ムルモノ増加シ來レリ。又少クトモ一年一回ハ全校生徒ノ運動會ヲ開催シ、是等ノ運動會ハ中等以上ノ諸學校ニ於テハ校友會運動部ノ催シトシ各運動部ノ競技大會ノ形ニ於テ行ハルルヲ常トス。而シテ之等ノ運動會ヲシテ一層保健並ニ訓練上ノ效果ヲ發揮セシメンカ爲之カ改善策ヲ講スルモノ多クナレリ。

對校競技ハ野球、庭球、トラック、インドフィールド競技、漕艇等ニ於テ盛ニ行ハレ、又大校、專門學校程度諸學校校友會運動部ノ間ニ學生聯盟組織セラレツツアリ、其ノ範ヲ米國ノ「インターガレデエエート」ニ取レリ。尙ホ野球聯盟、冬季競技聯盟モ最近組織セラレタリ。

夏季ニ於ケル體育運動及ヒ冬季體育運動ニ關シテハ別ニ項ヲ設ケテ記述セントス。

三、體育運動ノ教師及ヒ指導者ノ概況

小學校ニ於テハ專任ノ體操教師ヲ置ゲルモノ少ク大多數ノ小學校ニ於テハ學級擔任ノ教師カ兒童ノ體操遊戯及ヒ初歩ノ教練ヲ教授シ其ノ成績近年著シク良好トナレリ。

中等學校以上ノ諸學校ニ在リテハ專門ノ教師運動ノ教授指導ノ任ニアタリ居レリ。是等ノ教師ハ一九二四

年四月文部省ノ調査セル所ニ據レハ全國(大阪府ヲ除ク)千百十五校ニ於テ二千三百六人ヲ算ス。中等學校ニ於ケル體操教師ノ免許狀ヲ文部省ニ於テ下付スルハ特ニ教員養成ノ爲ニ設ケタル官立機關及ヒ特ニ認可セル私立養成學校ノ卒業生及ヒ體操科認定試験合格者ニシテ、逐年其ノ數ヲ増シ最近五ケ年ノ總數千三百二十二名ヲ算ス。今一九二〇、一九二一年ニ於ケル體操科教員(武道ヲ含ム)ノ一校平均人員ヲ掲クレハ

師範學校	三、七人	中學校	三、四人
高等女學校	二、六	高等學校	六、三
高等工業學校	二、八	醫學專門學校	二、〇
其他ノ專門學校	一、〇六、〇		

是等ノ體育運動專門教師ハ學校内ニ於テ體操科ノ正課及ヒ課外諸運動ヲ教授指導スルノミナラス、學校外ノ諸運動ヲ指導シ又競技會等ノ役員トナリ、一般社會ニ於ケル體育運動ノ進歩ノ爲メカヲ致ス者多シ。體育運動專門教員ノ養成機關ハ一九二四年度ニ於テ左ノ九種ヲ算ス。

官立

- (一) 東京高等師範學校體育科
- (二) 第一臨時教員養成所體操科
- (三) 第六臨時教員養成所家事體操科